

職リハ学会通信

No. 177 2024年 3月発行

目次

第51回島根大会のご案内	2P
運営理事会報告	3P
委員会報告	5P
ブロック活動報告	6P
事務局からのお知らせ	6P

第51回島根大会のご案内

8月の本大会に向けて参加・演題申込開始！

第51回大会は、島根県松江市で開催されます。2月23日(土)にはプレ大会を開催しました。70名を超える方たちが松江市に集い、前原和明氏の講座、朝日雅也氏、林輝男大会長の講演に学んだ後、グループで熱く語り合い、交流しました。本大会に向けた機運を高めることができたのではないかと手ごたえを感じています。

いよいよ8月の本大会に向けて、3月29日(金)より、大会ホームページにて参加ならびに演題発表の申込を開始します。

■ 「本人中心」について幅広く考える機会に

「本人中心」について、林大会長は次のように述べています。「そもそも、『本人中心』の『本人』とは何を指すのか。本人の希望、好み、意志、それとも才能や能力なのか。また、『中心』とは、誰から観た中心なのか。どういう枠組みの中の中心なのか。さらに、『本人主体』『本人との協同』『自己理解の促進』『自己決定の尊重』などどう重なり合うのか、または繋がらぬのか。『本人中心』について『改めて、幅広く考える』と、テーマは幾多とあるようです。ときには掴みどころのない、抽象的な議論となるかもしれません。しかし、その議論を避けて、どのような制度や評価法を設計しても、障害者が働き、人生を豊かにすることを目指す限り、結局はこの問いに支援者も当事者も帰結するのだらうと思います。」

本大会は、こうした林大会長の見解を踏まえ、「本人中心」について、幅広く考える機会にしたいと思っています。

■ 大会プログラム

基調講演は、林大会長による「再考『本人中心』～IPS伴走型個別就労支援の実践をもとに」です。続く基調シンポジウムでは、大会テーマ「職業リハビリテーションにおける『本人中心』を問い直す」について、当事者、家族、行政、福祉、医療など、さまざまな立場から意見交換することを企画しています。登壇者は、小野寺徳子氏(厚生労働省福岡労働局)、中川真弓氏(社会福祉法人ふらっと)、朝日雅也氏(埼玉県立大学)、林大会長です。基調講演と基調

シンポジウムを通して「本人中心」について深掘りし、「さまざまな視点や問い」を提示することで、後の各企画につなげたいと考えています。

大会企画シンポジウムは「どう活かす!? 就労選択支援」です。新たに始まる就労選択支援について、都会地と地方それぞれの実践を踏まえ、どのように活用していくかについて意見交換することを企画しています。登壇者は、倉知延章氏(一般社団法人福岡IPS普及協会)、星明聡志氏(社会福祉法人北摂杉の子会)、前原和明氏(秋田大学)、青山貴彦(社会福祉法人桑友)、厚生労働省(予定)です。

大会企画ワークショップは、島根県内の就労移行支援や特別支援教育における進路指導と移行支援の実践のほか、IPSの基礎と実際に関する企画等を準備しています。その他、研修委員会企画の研修基礎講座、国際委員会企画のワークショップ、政策委員会企画のシンポジウムを予定しています。もちろん、学会員の皆様の自主的な演題発表(口頭・ポスター)や自主ワークショップのための会場もご用意しています。

■ 申込

定員は300名です。ぜひ大会ホームページから事前申込をして頂きたいと思えます。事前申込は7月16日(火)が締切です。演題申込の締切は5月24日(金)を予定しています。抄録原稿の締切は6月26日(水)です。締切期日遵守のご協力をよろしくお願いいたします。

■ おわりに

多くの皆様にとって遠方の地となるかと思いますが、「JR松江駅から徒歩1分」という、最もアクセスの良い会場を選定しました。実行委員一同、精一杯の努力をまいります。

全国から多くの皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。「歴史と文化の薫るまち水の都・松江」に、ぜひお越しください。

(第51回島根大会実行委員長 青山貴彦)